

埼玉県さいたま市におけるコシヤクシギ *Numenius minutus* の観察記録

神戸宇孝¹・廣田純平²

1. はじめに

コシヤクシギ *Numenius minutus* はチドリ目シギ科ダイシャクシギ属の全長29-32cmの鳥類で、シベリア北東部で繁殖し、ニューギニアやオーストラリアで越冬する渡り鳥である (Brazil, 2009)。日本ではまれな旅鳥として全国的に記録があり (日本鳥学会, 2012)、環境省レッドリスト2020では、絶滅危惧IB類 (EN) に分類され、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い鳥類である (環境省, 2020)。日本では海岸近くの農耕地、芝生などで観察されることが多い (高野, 1983) が、著者らは、内陸県である埼玉県内にて、コシヤクシギ幼鳥1羽を複数日にわたって観察したので、報告する。

2. 観察場所の環境概要

コシヤクシギを確認した場所は、埼玉県さいたま市西区の荒川左岸部に位置する「ふじみ野市荒川第2運動公園」(以下、運動公園) と、そこに隣接する水田地帯であった (図1)。運動公園の草丈は、コシヤクシギの跗蹠長45-55mmを参考にすると (清棲, 1969)、およそ4-6cm程度と考えられる (図2)。観察当時は稲の収穫時期で、刈り取り前と後の水田が混在する状態で、コシヤクシギは刈り取りを



図1. コシヤクシギ飛来地遠景 (2021年10月5日 神戸宇孝撮影)

終えた場所に滞在していた (図3)。



図2. 今回記録されたコシヤクシギが利用していた運動公園の草丈の様子 (2021年9月6日 廣田純平撮影)



図3. コシヤクシギが利用していた水田 (2021年9月8日 神戸宇孝撮影)

3. 観察期間

運動公園での観察は9月6日で、隣接する水田地帯に滞在を確認できたのは、9月8-9日であった。埼玉県内では過去に約1ヶ月間観察された例があったため、その後も9月13日、9月15日、10月2日、10月5日に現地に行ったが確認できなかったことから、当地より飛去したと考えられる。

4. 種と齢の同定

今回確認した個体は、下に少し湾曲した短めの嘴をもつことからシャクシギ属であると判断し、体上面は淡褐色に黒い軸斑があり、

¹ 日本野鳥の会神奈川支部 Email: utakagodo@gmail.com

² 日本野鳥の会埼玉

頭側線や頭中央線が目立つことから、コシャクシギであるとした（高野，1983）。また、上面の軸斑がより黒っぽく、羽縁の模様がはっきりしており、三列風切のバフ色の部分が三角形を並べたような模様が明瞭であることから幼鳥であると判断した（叶内ほか，2014）。

類似種としてチュウシャクシギ *Numenius phaeopus* 幼鳥、ハリモモチュウシャク *Numenius tahitiensis*、日本未記録のマキバシギ *Bartramia longicauda* の検証を行なった。チュウシャクシギ幼鳥は嘴が短い個体も見られ、コシャクシギによく似るが、今回観察された個体は、行動を共にしていたムナグロ（全長約24cm）よりやや大きい程度で、チュウシャクシギ（全長約42cm）よりも小さいことがわかる（図4）。また、黒斑のある淡い黄褐色の羽毛が見られ、脚にややピンク色がかかっている点がチュウシャクシギとは異なっていた（Brazil，2009）。ハリモモチュウシャクは腿に針状の白っぽい羽毛が見られる（高野，1983）が、今回の観察個体には見られなかった。マキバシギは嘴が短くてほとんどまっすぐで尾羽が初列風切より突出して脚が黄色い（Svensson，2010）が、今回観察された個体とはこの特徴と合致しない。



図4. コシャクシギ（右）とムナグロ（左）（2021年9月9日 神戸宇孝撮影）

5. 行動

観察した全ての日で、ムナグロの群れ（9月6日は約80羽、9月8、9日は約30羽）と行動をともにしていた。休息や羽づくろい、採食行動が確認された。運動公園ではミミズを捕食する行動を確認した（図5）。水田でも地面や刈り取った稲の株や地面を嘴で突く採食行動を確認した。

コシャクシギはムナグロの群れの中におり、ムナグロの群れが動き出すと一緒に動く傾向が見られ、この群れに混じるオグロシギ *Limosa limosa*（2羽）、ソリハシギ *Xenus cinereus*（1羽）、トウネン *Calidris ruficollis*（3羽）にも同様の傾向が見られた。9月8日の観察では双眼鏡と望遠鏡で姿を確認した後に記録用の撮影のために近づくと50mほどで隣の水田へ移動する行動が見られたため、以降はコシャクシギのいる場所から50m以上離れた場所から観察と撮影をした。しかし、散歩など観察を目的としない人がコシャクシギのいる田んぼのそばを歩いて50m以内に近づいても隣の水田への移動は見られなかった。本個体を観察中に鳴き声を聞くことはなかった。



図5. 芝生の上でミミズを食べるコシャクシギ（2021年9月6日 廣田純平撮影）

6. これまでの埼玉県内での記録

埼玉県内でのコシャクシギの飛来記録は、1976年9月8日-10月3日に浦和市秋ヶ瀬で毎日記録された1例（埼玉県教育委員会，1978）のほか、日本野鳥の会埼玉が発行する支部報「しらこぼと」において、創刊された1984年5月以降、これまでに6例ある（日本野鳥の会埼玉，1990，1995，1997，1998，1999，2011）。今回の記録は埼玉県下では8例目となり、秋の記録は4例目となる。

支部報「しらこぼと」の野鳥情報欄に記載されたこれまでの埼玉県内のコシャクシギの記録を紹介する。地名は支部報に記載されたそのままとし、日付、場所、観察者、「しらこぼと」掲載号の順で記載する。

1990年4月29-30日

浦和市秋ヶ瀬大久保農耕地

登坂久雄 1990年8月第75号

1995年4月22日 浦和市秋ヶ瀬A区

鈴木博 1995年6月第134号

1997年10月11、18日 富士見市上南畑

海老原美夫 1997年12月第164号

1998年9月2日 浦和市秋ヶ瀬A区

倉林宗太郎 1998年11月号第175号

1999年4月1日 蓮田市黒浜笹山

中島康夫、郁夫 1999年6月号第182号

2011年5月4日 杉戸町祭場

長嶋宏之 2011年9月第329号

今回の記録を含めた埼玉県内での8例の記録のうち、秋ヶ瀬付近での確認が4例と一番多いことから、埼玉県内では主に秋ヶ瀬周辺の農耕地やグラウンドで今後も確認される可能性があり、今回の確認ではムナグロの群れの中にいたことから、春と秋の渡りの時期には他のシギやチドリの群れの中に混じることも予想される。

謝 辞

本報告を作成にあたり、吉井千晶氏、小島広平氏には多くの助言をいただきました。日本野鳥の会埼玉より、支部報「しらこぼと」における情報提供いただきました。また、埼玉県立川の博物館学芸員の藤田宏之氏に本稿改善のため、アドバイスをいただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

引用文献

- Brazil, M. (2009) *Birds of East Asia*. 176-177pp. Christopher Helm, London.
- 叶内拓哉, 安部直哉, 上田秀雄 (2014) 山溪ハンディ図鑑7 新版日本の野鳥. 246-247pp. 山と溪谷社. 東京.
- 清棲幸保 (1969) *野鳥の事典*. 28pp 東京堂出版. 東京.
- 環境省レッドリスト2020の公表について (閲覧日2021年10月2日) <https://www.env.go.jp/press/107905.html>

環境省レッドリスト2020 報道発表資料 レッドリストの見直しのページ (閲覧日2021年10月2日) <http://www.env.go.jp/press/files/jp/8929.pdf>

日本鳥学会 (2012). *日本鳥類目録 改訂第7版*. 133pp. 日本鳥学会. 東京.

日本野鳥の会埼玉 (1990) *野鳥情報*. しらこぼと75 : 6.

日本野鳥の会埼玉 (1995) *野鳥情報*. しらこぼと134 : 6.

日本野鳥の会埼玉県支部 (1997) *野鳥情報*. しらこぼと164 : 6.

日本野鳥の会埼玉県支部 (1998) *野鳥情報*. しらこぼと175 : 7.

日本野鳥の会埼玉県支部 (1999) *野鳥情報*. しらこぼと182 : 6-7.

日本野鳥の会埼玉県支部 (2011) *野鳥情報*. しらこぼと329 : 6.

埼玉県教育委員会 (1978) *埼玉県動物誌*. 66pp. 埼玉県教育委員会. 埼玉.

Svensson, L., Grant, P. J., Mullarney, K. & Zetterström, D. (2009) *Collins Bird Guide 2nd edition*. 160-161pp. , Harper Collins, London.

高野伸二 (1983) *野鳥識別ハンドブック 改訂版*. 155-156pp. 日本野鳥の会. 東京.